

施策評価シート(平成31年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0305	政策名	芸術文化の振興	施策主管課	文化財課	課長名	平野 克則
政策の目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます						
施策No	04	施策名	民俗芸能の伝承	関係課名			
施策の目指す姿	民俗芸能への理解が深まり、伝承活動を活発に行っています						
現状と課題							
<p>・市内には、ユネスコ無形文化遺産に登録された早池峰神楽をはじめとして、数多くの民俗芸能が各地域に伝承されていますが、少子高齢化による後継者不足により、民俗芸能の伝承が困難な団体もあります。</p>							

前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性
<p>・民俗芸能団体との意見交換会を開催し、後継者育成と確保のため各団体が取り組んでいることや考えていることの情報交換を行う。 ・市教委が主催する郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバル等への出演団体数を増やすことを検討するほか、出演依頼の際は、出演実績の少ない団体の掘り起こしに努める。</p>
反映状況
<p>・民俗芸能に取り組む若い人たちと文化財保護審議会委員との意見交換会を開催し、伝承に係る課題や方策について話し合った。 主な意見は、民俗芸能を楽しく賑やかに披露できる場の確保と宣伝が必要、学校で民俗芸能に触れる機会を設ける、人員や用具等が不足する場合は同系統の団体同士で助け合うことが継続につながる。 ・郷土芸能鑑賞会は、早池峰神楽ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念公演との2部構成としたため、出演団体数を増やすことができなかった。青少年郷土芸能フェスティバルは、全体の公演時間の都合から出演団体数は前年と同数の9団体とした。2つの鑑賞会へは合計18団体が出演したが、その内、直近5年以内に出演していない団体は14団体である。 ・出演実績の少ない団体の掘り起こしに取り組んだが、出演する人数を揃えることが難しいこと、大きな会場での発表に不慣れのため自信がない等の理由により実現しない団体もあった。</p>

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1)民俗芸能の伝承支援
<p>民俗芸能の発表の場や伝承活動の場の確保 ・郷土芸能鑑賞会、青少年郷土芸能フェスティバル、古民家活用郷土芸能鑑賞会、みちのく神楽大会、大迫郷土文化保存伝習館公演を開催した。 民俗芸能団体の活動状況の調査と活動状況に応じた支援 ・民俗芸能に取り組む若い人たちとの意見交換会を開催した。 ・1団体の衣装新調にかかる補助金申請を支援した。 公演会情報等の市民へのPRの推進 ・市広報紙・HPへの掲載、文化施設、振興センター等へのポスター掲示とチラシ配置、班回覧により公演を周知した。</p>

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H28	H29	H30	H31	R02	R03
郷土芸能団体数	地域ぐるみで伝承・保存に努めることが重要であることより、地域で実際に郷土芸能伝承や保存活動している状況を表す指標	花巻市郷土芸能保存協議会、花巻地方神楽協会、花巻市文化団体協議会の加盟団体より把握する。	団体	目標値		96.00	96.00	96.00		
				実績値		96.00	96.00	96.00		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	<p>成果指標「郷土芸能団体数」・・・【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本施策における成果指標である「郷土芸能数」は、地域に伝わる郷土芸能を残していこうとする人たちの強い意識により、団体数が維持されていると考える。 ・コミュニティ会議において、鑑賞会や発表会の開催、用具購入費の補助や活動費を助成するなど、地域をあげて支援している。 ・市内57%の小中学校において、運動会などの行事で民俗芸能と触れる機会が設けられており、それが将来の伝承活動への参加のきっかけとなっている。

4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに自分も参加してみたいと思わせる動機づけのため、小中学校において民俗芸能を鑑賞・体験する「民俗芸能の出前授業」を行う。 ・民俗芸能の伝承のためには、熱意のある指導者の存在と、伝承者の高いモチベーションの維持が重要であることから、発表・公演の場の設定と、伝承者の横のつながりをつくる取り組みを行う。
新たに取り組むべき事業はないか
なし

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会などの行事で民俗芸能に触れる機会を設けている市内57%の小中学校には継続してもらい、残る43%の小中学校でも民俗芸能を鑑賞してもらおう施策が必要である。 ・民俗芸能団体の多くが「後継者不足」と「高齢化」を課題としているため、民俗芸能団体と一緒に原因分析と有効と思われる手立てを検討する必要がある。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校へ民俗芸能団体を派遣し、児童生徒に鑑賞してもらおう事業を行う。 ・民俗芸能団体との意見交換会は、平成30年度は団体の代表と、令和元年度は若い伝承者と行ったが、芸能によっては中心となる年齢の違い(例 さんさ踊のように子どもが中心)や活動の時期が限定(例 お盆の念仏踊)されるものもあることから、芸能毎に意見交換会を開催し、後継者確保と伝承に有効と思われる方策を考える。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		
	事業内容(活動実績)		対象	意図	成果
			直結度		
010	民俗芸能伝承支援事業費	文化財	一致	直結	B
	郷土芸能鑑賞会(9団体、1000人)、青少年郷土芸能フェスティバル(9団体、640人)、古民家活用郷土芸能鑑賞会(3団体、200人)、大迫郷土文化保存伝習公演(1団体、200人)の開催			A	
011	民俗芸能伝承支援事業費	文化財	一致	間接・補完	B
	民俗芸能団体(5団体)と市文化財保護審議会委員との意見交換会を開催			B	